

## 補綴マテリアルの選択基準と技工プロセスのデジタル化

辻 貴裕

2000年代に入ってから、歯科技工はすでに模型をスキャナーでスキャンし、レイヤリング用のジルコニアフレーム、チタン製やジルコニア製のカスタムアバットメント、インプラントブリッジフレームをデザインできるようになった。そして、現在では多くの補綴物で、レイヤリングを必要としないモノリシックジルコニアを使用することが増えてきている。その理由に、ジルコニアディスクのラインアップが増え、強度重視のものから審美性を追求した透過性の高いもの、また蛍光性の高いディスクなど、用途に応じて使い分けられるようになったことが一因と思われる。

そして、この数年で口腔内スキャナー(IOS)が加速度的に普及し、フルデジタルプロセスが可能になったことで、われわれ歯科技工士の在り方も変わろうとしている。

今回はラボのデジタル化を進めるための基本的な構築から、デジタルデータを扱うためのクラウド活用法、モデルレスで補綴物製作を成立させるためのヒント、IOSデータによる天然歯ケースとインプラントケースそれぞれのワークフロー、トラブルシューティングなどをご紹介します、Digitization する診断から補綴設計までのプロセスを解説したい。